

D-7 幼稚園・保育所児童の食事に関する研究(その2-朝食について)
聖和女大教育 石垣恵美子

目的 前回の昼食に関する研究に引続いて、今回は朝食について研究した。摂取食品の傾向を、①朝食の形態—洋風・和風別、②地域差、③幼稚園・保育所向の差、④母親の学歴差、⑤体格差、⑥朝食ぬきの向題、等について検討し、幼児教育施設児童の朝食のあり方、昼食との関連、及び食事全般について考察するのを目的とした。

方法 ①昭和47年3月、都会住宅地にある2カ所のK・O幼稚園、及び工場・商店密集地にある私立S保育所、及び近地の農漁村地域にあるT幼稚園の母親達に10日間分の朝食献立と摂取食品の記入を依頼。②都会の住宅地一部商店街にある公立N保育所の「家庭連絡帖」に記入された朝食の内容を10日間分のみ任意に抽出。③④を目的項目別に検討・考察した。

結果 ①朝食の形態は洋食の方が多い。②地域別には、都会地が比較的洋食が多いのに反し、田舎は和風が多い。③保育所児の朝食は幼稚園児に比べて著るしく貧弱である。特に洋風食の場合が貧弱で朝食ぬきの者も相当いた。④大学出の母親は洋食が多く、割に献立もよく考慮されている。中高出は比較的和食が多く、摂取食品数も高い。しかし低く母親の場合は学歴に関係なく朝食は貧弱である。⑤保育所児には平均体位以下の者が比較的多い。⑥朝食ぬき、或いは不完全朝食の常習者は保育所児に多い。保育所給食の重要性がわかる。

今後これらは、昼食夕食や間食との関連、子供の情緒面、更に家庭教育との関連に於いてとらえていかねばならない向題である。